

# 北海道師範塾 「教師の道」 塾頭通信

第726号 平成26年4月24日

## どちらが大事

各学校では、入学式も終わり、新鮮な気持ちで授業がスタートしている事と思います。

ところで、自分が担任となっている生徒達の入学式を欠席し、我が子の入学式の方に出席するという教師がいたら、貴方ならどう受け止めますか。

これは、今年の埼玉県下の高等学校の入学式で実際に起こった事で、50代の女性教師（A教諭）が自分の学校の入学式には欠席し、息子の高等学校の入学式に参加した事が明るみになって、物議を呼んでいます。なお、県教育委員会によると、県立高校では、担任をしている学校の入学式より我が子の入学式の方を優先した教師が複数名いたとの事です。

教師という仕事に就いていると必ず直面する問題ですが、これは「どちらも大事」だけれど「どちらか選ばなければならない」という、切ない問題です。

以前なら「自分の学校行事の方を優先するのが当然」という声が圧倒的だったと思いますが、今回の問題に関しては「わが子の入学式に出席して何が悪いのか」といった声も少なくないという事ですので、これも時代を映しているのかなと思います。

今回、A教諭が何故我が子の入学式の方を優先したのか、事情は分かりませんが、軽々に論評する事は避けなければなりません、教師としての生き方が問われる局面でもありますので、この問題を少し考えて見たいと思います。

学校の入学式は公務であり、息子の入学式は私事です。私達は、プロとして一つの仕事を任されており、その仕事に対して報酬を得ている以上、基本的には公務は優先（職務に専念）すべきです。

勿論、いくら個人的な事情であっても公務から離れざるを得ない場合がある事は当然です。従って、何があっても公務優先という事ではありませんが、大事な事は、公務と私事とのバランスを良く考えた上で、どちらが大事かを選択しなければならないという事です。

なお、今回の問題に関しては校長の顔が見えて来ませんが、これは一体どうしたことでしょう。入学式当日に休暇を取りたいというA教諭の申し出に対して、校長としてどう対処したのかも気になる所です。

ところで、私の場合は、子ども達の入学式や卒業式に出席した記憶がありません。今から考えると、残念に思いますし、悔いも残ります。当時、周りでは年休を取って入学式や卒業式に出席した職員もいない訳ではありませんでしたが、仕事人間だった私は「まずは公務を優先する」という姿勢を通していました。どちらの態度が正解か答えはないと思いますが、私自身は自分の選択で良かったのだと思っています。多分、子ども達は、父親としての私の生き方を分かってくれているだろう（これは私の思い込みかも知れませんが）と考えています。

さて、学校の入学式というのは、子ども達にとっては新しい人生のスタートであり、期待と緊張で胸も一杯というところだと思います。特に、担任の先生に対しては、「どんな人だろう」と興味津々で最初の出会いを待ち受けている事でしょう。

それが、「クラスの子ども達よりも我が子の入学式の方を優先しました」という事になると、子ども達の失望感（この表現は大げさだとしても「な～んだ」というガッカリ感）は否めないと思います。

勿論、入学式に欠席する理由が、例え我が子の入学式に出席するというものであったとしても、担任の先生にそうせざるを得ない特別の事情があるのなら、クラスの子ども達はちゃんと理解してくれると思います。ただ、何事も最初が肝心という事からすると、出だしのガッカリ感を埋めるには、それ相応の時間とエネルギーを必要とする事は覚悟しなければなりません。

もう一つ付け加えるとすれば、教師という仕事に止まらず、どんな仕事にもそれぞれに役割があり、その役割には責任というものがくっ付いていますので、その責任を全うしようとし、職務に打ち込もうとすればする程、必ずどこかで自己犠牲が生じるのは致し方ありません。自己犠牲を美的だと礼賛するつもりはありませんが、教師の自己犠牲が、子ども達の心を引き付ける力を生み出す事は、否定できないと思います。（塾頭：吉田 洋一）